

第2回豊岡市基本構想審議会 会議録（要旨）

開催日時 平成28年4月13日（月）午後1時30分～午後3時30分
開催場所 豊岡市役所 3階庁議室
出席委員 加藤委員、井垣委員、大槻委員、近本委員、西村委員、土野委員、宮崎委員、
由利委員、岡本委員、河口委員、河本委員、酒井委員、中川委員、田口委員
欠席委員 平峰委員、上田委員、中嶋委員
傍聴人 1名

1. 開会

2. 会長あいさつ

皆さん、どうぞよろしく申し上げます。この4月から大学も新たなスタートをしたんですけど、豊岡出身の学生が入ってきてくれました。地元への愛情がものすごく強くて、神戸で勉強して地元に戻って、活躍してくれたらいいなと思っています。今日はよろしく申し上げます。

3. 自由討議

テーマ「10年後の豊岡の暮らしと仕事について」

会長 自由討議ということで好き勝手に言っていただいたら良いんですけど。そもそも基本構想、基本計画を市の将来をみんなで考えようということで始まったんですけど、みなさん自身がまちの将来といいますか、あるいはご自身の10年後、15年後あるいは家族、しごとの将来というのはやはり考えていただきたいですね。そこから計画をどのようにしたらよいかを提案していただくことが大事です。会議が実質的にスタートする今回、みなさんからそんなイメージをご発言、ご提案も含めていただいて、そのあたりから会議を動かして行けたらなと思います。実は私の提案でして事務局と相談してそうさせていただいておりますので、自由に発言していただけたらと思います。この後、徐々に固めの話、制度の面とかの話にしていきたいと思います。繰り返しになりますが、このメンバーで豊岡市の将来のイメージを共有することが大事だと思います。自由討議ですので挙手いただければありがたいと思います。それなりに考えてきていただいていると思いますので。7月は専門家の方に来ていただくそうですので、みんなで将来について勉強していったらと思っています。

(委員) 10年後について考えてみました。女の子が3人いて、10年後は上の子は20歳、真ん中が高校を卒業します。一番下が義務教育を修了します。考えるとぞっとしました。うちの家庭に経済力があるかどうか不安になりました。子どもたちを大学に行かせてやれるかどうかはまず、不安です。私は京都府南部に育ちましたので大学は家から通える状態だったんですが、こちらはみなさん下宿とか親元を離れて一人で暮らしをされています。こちらの保護者のみなさんは経済的に支えていらっしゃる

いますが、どの家庭でもできるのかが難しいと思います。大学が近くにある地域と比べて難しい状況にあるんだと思います。頑張らなければしょうがないと思うんですけど、できるならば親の経済力と子どもが受けるべき教育とが関係ない世の中になればありがたいと思います。勉強できる子、したい子には親の経済力と関係ない教育が受けられるようになれば良いと思います。それが将来のまちづくりに役立ってくると思います。うちは写真屋をしています、ほとんど地元の方を相手に商売をしています。人口が減ると商売が難しいと実感しています。うちだけでなく、豊岡の街中で見ても閉められたお店がたくさんあって、人口が減少しているなかではお店を開いていても通る人が少ないので商売が難しくなっています。みんながある程度稼げる仕組みができないかなと思っています。

会長 最初から良いことを言っていました。教育ですよね。これも議論し始めたら1回で終わらないような話だと思います。豊岡でも重要な課題だと思います。みんなが望めば同じ教育が受けられることが大事だと思います。我々、経済学者は格差の問題に非常に興味があって、色々な格差があって一体どのようにしたらよいかということになるんですが、結果として格差そのものはなくなるんです。必然のものです。ただ、受けた教育のレベルと収入はほぼ比例しています。色々なチャンスを受けることができるはずで、教育を受けることによって得られることは間違いありません。都市部にいたら受けられて、豊岡にいたら受けられないということはまずいことです。教育そのものは日本中どこにいても同じく受けたい人には受けられる状況を作ることが必要です。豊岡が都市部に比べて優位性を持つには、より教育に力を入れて、豊岡にいたら都市部にいるよりも良い教育を受けられるということがあっても良いと思います。そのような認識を市の皆さんが持って、そこに投資することは決しておかしいことではないと思います。

(委員) 7人家族です。私たち夫婦と息子夫婦と孫が3人です。中学生が2人と高校生が1人という状態で暮らしています。10年後というよりも今日一日、この一週間、今をどう過ごすかで日々の生活をしています。時間はあっという間に過ぎてしまいますし、10年後は想像できません。地域が変わるよりも社会の変化が大きいと思います。どこに日本が向かっているのか全然分からない状態があって、それでこの地域が振り回されていくのだと思います。今までから言われている少子高齢化、人口減少、家族構成の変化が激しくなっており、生活に大きく密着して変わってきています。この間、久しぶりに村の日役に出ましたが、今までであれば働き手の男の人が出て作業していましたが、そういった人がいなくなって女性が多くなっています。女性の力を借りて成り立っています。女性の社会進出が言われていますが、地域も同じだと思います。女性の力を借りて世の中も回っているんだなと感じています。地域コミュニティに力を入れています、地域で高齢者を支えたり、地域を守ったり、地域のまつりごとを伝えていくことでまとまっていますが、ある程度元気なお年寄り、ある程度余裕を持ったお年寄りが関わって、頑張っておられるから成り立っていると思います。5年後、10年後は世代が変わってしまっ

の在り方自体も仕組みを変えていかないといけないと思います。今の高齢者はとても元気で、暑い日も寒い日もグラウンドゴルフをされています。そんな高齢者で地域がまわっているんだと思います。

10年後の豊岡市が住みにくいかと考えた時に豊岡が変わるというよりも都市部が住みにくくなっていると思います。豊岡はある程度、自然環境も豊かで地震や津波が心配されていますが、そういったこともある程度安心な所だと思います。裕福ではないけれども安心して命を守る生活ができるということで見直されるのではないかと思います。そこに住む若者がどう思うかですが、社会から孤立してしまったら地域に住んでいる他の者にとっては良くないことだと思いますが、今やスマホやネットにつながっているので、本人は孤立を感じることは少ないと思います。裕福ではないですが、時には街に出かけて行って空気を吸って、また田舎に帰って静かな生活を送るというこはとても贅沢なことだと思います。買い物にしてもネットを通じてできて、2日後には届きます。辛抱できないほどの不自由さは感じないと思います。都会でどんどん新しい物を求めていくほうが生活しにくくなると思います。世の中が変わるのではなくて、自分たちが思いを変えること、幸せの価値観を変えていけば、十分に幸福な生活が得られると思います。そのためには子どもたちの教育が必要だと思います。生きる力を学ぶことが必要で但東町は東井先生がいらっやって、教材として勉強しています。それから自然が豊かということですが、日本中どこに行っても自然は豊かです。その中でも豊岡はすごい、ちょっとしたことに良さを見つけることが大事で「ちょっと違うよね、豊岡は」ということを知るべきだと思います。もう一つは経済的なことですが、あまりにも格差がある豊岡にすべきでないと思います。この3つがあれば何とか住みやすい豊岡になるのではと思います。

会長 総合計画らしい重要なキーワードを全部言ってもらいました。女性、高齢者、若者というのは、10年ほど前に政府に経済企画庁があった頃に21世紀の主役たちというレポートが書かれていて、この三者が担うことになるだろうということでした。女性の場合は、法律も作られて社会参加が進んでいますし、特に豊岡をはじめとして非都市部でも働いている女性の割合が高くなってきていますので、頑張ってもらいたいと思うんですけど、高齢者もその方向ですが、残る若者がなかなか難しいです。このあたりが生き生きとすることが大切で仕事が選べるということが絡んできます。幸せの価値観は人によって違って、全体としてシフトしてきているので、豊岡としてどうとらえるのか、行政の計画にどう盛り込むかを議論していくことが必要だと思います。なかなか難しいことだと思います。最近ブータンの件もあったりして、行政が積極的に幸せの価値観を測ったりしています。

(委員) 城崎で旅館をしています。2025年がどんな時代かという、いよいよ団塊の世代が80歳を超えて相当厳しいと覚悟しています。それをどうやっていくかが大事で2025年～2035年が一番大変です。そこをどう乗り越えるかという観光が頑張っ経済をけん引しないといけないと思っていて、その辺のボリュームと責任はある

と思います。じゃあ、この10年何が進むのかといえば、道路が城崎の近くまで延伸し、橋ができたり、バイパスができたり、飛行機は東京直行便ができたり、インフラは何かしらで進むのかなと思います。宿泊について現在は約60万人ですが、一年間に80~90万人になるような戦略を組み立てていかないと相当、豊岡市の財政も厳しくて立ちいかないと考えています。我々は観光で世界を相手に狙っていかないといけないのかなと考えています。私は、教育がすごく大切だと思っています。今いる人に戻ってきてもらいましょうと思っても減少のスピードは圧倒的に速くて追いつかないと思います。観光を含めて産業を活性化してよそからも人が来てくれて、その方々も住み続けたいと思えるまちになるには子どもの教育がすごく大事だと思っています。何となく総花的ではなくて、ある程度とんがった形で先進的に圧倒的に教育環境を何かしら向上させて10年後には具現化しておかないといけないと思います。そのためのロードマップを構築しなければいけなくて、少子化、高齢化にそっぽを向いてしまえば活力の維持は見込めないと思います。どうやってやるのか真剣な議論が必要だと思います。

会長 若者の働く場所が必要だと思います。観光は日本の基幹産業になりつつあります。まさに、国家戦略でもありますし、それに乗らない手はないですし、そこに呼応しなければ地域の将来はないと思います。その時にものづくりというのはある種で地域経済の役割として目に見えやすく分かりやすかったんですが、観光産業は城崎に限定されたビジネスですが、どういう形で城崎がグッと拡張した時にこの地域に全体が豊かな構図が作れるのかということが重要であると思います。そのあたりはどうでしょうか。

(委員) 例えば、食材資源があったり、すそ野が広いのでかなりの経済効果はあると思います。あと、雇用の面でもうちの会社でもかなりの数を雇用しています。これから豊岡市の収入がどんどん落ちていって、どうするのかという市全体でお金をまわしていくことが必要で観光はその役目を担う一つの産業になると思います。先ほど国の話をされていましたが、今は2,000万人ですがこれを2020年に4,000万人にする目標となっているので、国全体として頑張ってやっていくと思うんですが、城崎が国の中でもリーディングエリアとなるようにしていかないけないと思います。我々自身のためでもあるが、地域活性化のためにもしていかないけないと思います。

会長 城崎では予約がほとんど取れなくなっていると思いますが、いかがですか。

(委員) 週末はほぼカニの時期を含めて、うまっていますが、平日はこの時期は大丈夫です。外国人がとても多いです。全体的に波及していったらと思います。

会長 経済の発展は多様な軸を持ち始めると思います。城崎が日本のモデルになるような地域になっていけば良いと思います。

(委員) 日本の靴産業は東京、大阪、名古屋、豊岡で前段の3つは非常に厳しくなっていて、会社が減ってきています。事業者はあるんですが、会社を支えている下請けや孫請けといった周辺を支えている人口が減ってきています。豊岡も業界で若い

縫製者や営業者を増やそうということで、アルチザンや縫製組合がやっていますが実際はそれでまかなえていません。正直、リクルートで豊岡外から引っ張ってこようと思えば住みたい人はいるんですが、問題なのは一から自分の家を借りたりして生活できる給料を払うことができるかという問題が雇用する側にあります。各企業で住宅助成金であったり色々な手当をつけているにも限界があります。でも、それをしてまでも定住につなげていかないと企業の寿命は先が見えますし、そこをできる企業、できない企業があります。地方創生も大事ですが、10年後を見ると支援をする地方の特例が必要で、豊岡市も特例を認めていかないといけないと思います。空き店舗を利用しようとか意見は出ますが、具体的なアクションが出てきません。いつまでもそれではいけないと思います。

それと、日本で若い人が減るとカバンを購入する人も減ってきます。海外に出て販売もやらなくてははいけません。海外で販売する経験を各企業が個々でするにはなかなかできないと思います。行政、JETRO とか連携してテストしていかないとはいけませんし、5年のうちに具体的なプランを描いてやらないとこれまで何年そのままになってしまっていて、今にツケがまわってきています。豊岡鞆の産地ブランドが残って日本の中でも地場産業が元気がいいなと思われていますので、実態は半分程度が厳しいですが、何か考えないとシャッター街はさらに増えていくと思います。インターネットを使って地方でできることがたくさんあると思います。城崎に来るお客さんに豊岡で鞆を買ってもらおうということがあって、はじめはそこまでは思っていました、最近はそのそこのお客さんがあって結構な売り上げがあります。その売り上げも大事ですけど「空き店舗を利用して創業したい」、「土日だけでも販売したい」という会社勤務の若い人は多いです。でも、企業戦士として普段はやりたくないものを作っている人もあります。空き店舗を利用してお客さんのリアクションを見ることは違った意味があって、「どうせ、シャッターが閉まっているんだからそこを使おう」ということに対して何が邪魔するのかという変なプライド意識であると思います。そこは街のために自分の空き家を貸すとか、地方に来た人に貸すといった姿勢が大切だと思いますし、行政の支援も必要だと思います。あと、女性の産休、育休の問題があります。私の会社にも待機児童はあって、高齢者がたくさんあるなかで、やり方によって他人の子どもを預かる仕組みがあれば、60歳を過ぎて元気な方もあるので子どもをしっかりと面倒みってくれるのであれば企業側として大変助かると思います。

会長

具体的な提案もあって色々な話もいただきました。豊岡市は地方創生戦略には起業支援も含まれていると思いますが、日本は起業しない国なんですね。世界と比較して悲惨な状態です。起業したい、やってみたい人は絶対にいるはずなんですね。ところが、そうしたがるのはなぜかという、日本では起業したら損であり、リスクが大きすぎるということや邪魔するものが多いです。邪魔しているものを外すだけでも街は一気に変わってきます。制度的に新しいものを生み出す仕組みになっていないと思います。そのあたりの意識や制度、仕組みを変えることで「豊岡に

来たら新しいことが次々にできるぞ」という雰囲気、仕組み、仕掛け、支援を徹底的に作ってみることが必要だと思います。そんな雰囲気の街になることが大事であって、出身者だけではもたなくて、競争状態にありますので、どこかが増えればどこかが減るんです。豊岡が制度・仕組みをどこまで具体的に大胆に提案できるかだと思います。そのためには、これまで利益を得ていた人に撤退していただいて、新しい人に利益を提供することになる可能性が大きくて、どれをやるか地方は非常に厳しい選択に迫られています。おそらく、地方創生では日本全国の2,000の自治体がすべて良くなるとは思っていません。地方を走らせて提案できるところ、政府が自分の手柄にしたいところに集中的にこれから投資が入ってくると思います。事態は非常に厳しいと思います。

(委員) 消防団の関係でお話しします。我々、消防団は地域のことは自分たちで守るということをやっていますが、非常に多様化する災害や少子高齢化もあって大きく変化してきています。消防本部、消防団、自主防災組織で連携して合同訓練を行っていますが、10年間を考えると消防団員の人材確保が豊岡市の各団共通して難しくなっています。「辞める時には絶対に新しい人を連れてこい」ということでしたが、定数に達しないところは区長に推薦をいただきながら何とか確保しています。これからは機能別消防団というのも考えられると思います。平日の昼間の火事は消防団員の確保が困難でOBや市職員で構成できればと思っています。香美町は平成27年から実施しており、養父市は今年の4月からしています。これには条例の改正が必要であって、難しい面がありますが、人員確保が大変難しいので、ぜひ必要だと思います。豊岡市の消防団は6団あるんですけど、そのなかで隣接する火災には応援協定をしていて、4月から運用を開始しています。職場の環境もあると思いますが、消防団は火災だけでなく、他の災害も含めて対応しないといけませんし、特に昼間の人員確保が難しいです。

会長 神戸の須磨あたりでは女子学生が消防団に入って地域の力となっています。三田では関西学院の学生が入っていて、みなさんよく頑張っています。消防団は地域を守るという点ではすごく重要であるので何とか維持、堅持してもらいたいです。

(委員) 10年後は個人的に寂しい思いをしています。若い方や起業されている方もあって夢のある内容の話を聞いていましたが、私は暮らしていくうえで欠かせない、すべての活動の前提となっている安全安心、特に防災については絶対に欠かすことができないと思います。毎年の大規模災害が全国各地で発生していたり、テレビでは記録的豪雨とか言われていますし、かつての台風23号の時は大変な降りでした。総雨量が300ミリまでで時間40ミリ程度だったと思います。平成22年の台風では奈良県に2,000ミリ降ったり、最近は時間100ミリは当たり前に報道されています。そういうことを考えるととても大事だと思います。少子高齢化、人口減少下であっては、自助・共助・公助のうち自助・共助を強化する必要があります。言葉はすごく簡単だと思いますが、個人でしようと思えば長続きしないと思います。地域みんなで力を合わせてする必要があります。自主防災組織も実践的な訓練をされて

いるところもありますが、全体的にはまだ不十分な状況です。自主防の強化にあたっては、防災リーダーを市内各地区に配置して、一人だけでなく地域全体で意識を高めることが必要だと思います。災害は時間とともに状況が変化するので、適切な判断が必要です。これを災害イメージーションと言うんですけど、防災教育が大事です。学校のカリキュラムでは時間確保が難しく、先生が十分に教えることが難しいと思います。大人になってからはなかなか聞いてもらえないので、子どもの頃から必要であり、特に中学生を対象とした活動が必要だと思います。東日本大震災では「釜石の奇跡」という話があって、釜石では1,000人ほど亡くなりました。市内の小中学生は3,500人ほどですが、そのうち小中学生で亡くなられたのは5名でした。学校管理下で亡くなったのはゼロでした。さらに、元気な高齢者のパワーを活かす仕かけが必要だと思います。昼間は若い人がいないので、あのパワーをもう少し防災の面に活かしてもらおうようにしなければいけないと思います。

会長 豊岡の高齢者は超元気だというのが共通の認識ですね。防災・減災の意識は南海トラフの関係がある南部のほうが高いです。減災に対する投資は必要ですし、知識を伝えたりして子どもに対する教育も含めて投資したところはダメージが少なくなると思います。計画の中でも位置づけておくことが必要です。

(委員) 親子3人です。ここに住み続けているかなと思います。城崎は非常に居心地が良いので10年後も住んでいたいと思います。観光がメインですし、これからは一層海外を含めてやっていかないといけないと思います。観光地は人口交流のすそ野が広いというか、風通しが圧倒的に良いです。田舎に戻ってきて、人的交流の多様性が僕がいた頃とはそんなに変わらないと思っていましたが、裸の付き合いで外国人と会えたりします。娘は外国人を英語の人と言います。それまでは、いわゆる西洋人のことだけを思っていたのですが、中国人や韓国の人といった日本人と見た目は変わらない人であっても日本語を返せない人がいることを実感しています。これはすごく良いことだなと思います。観光で経済が回っていくということは、実際の数値だけではなくて、文化度のすそ野を広げていくことつながると思います。そうならば10年後も住み続けていきたいと思います。

あと、城崎国際アートセンターの館長という立場で10年後はどうかというと、城崎国際アートセンターは地方創生の核であり、子どもに対してコミュニケーション教育やふるさと教育をしていこうということになっています。まず、ローカルなことをきちんと教えることでふるさとに対する誇りを持つことにつながります。ふるさとを知らないから市外に出ていくことになるのできちんと自分のまちを知ることが大切です。それから最低限、英語は使えるようになって、その二つを使って世界中のどこの人でも対等に付き合えるようになるということです。コミュニケーション能力を高めることをアートセンターがやっていくことは一つの大きな柱になると思います。それ以上にアーティストというよく分からない人たちが先生と呼ばれたり、経済的に自立していることを子どもに触れさせることが非常に大きいのかなと思います。人生の選択肢が色々とあり、勉強が苦手でも自分がどこかで活

かせる部分があるので、そこをきちんとやっていきたいと思います。

今、直島の小学校ではなりたい職業の第4位が芸術家です。あそこは瀬戸内芸術祭というのがあって色々な人が来ていますから、サッカー選手、学校の先生、パティシエ、芸術家といった順位になっています。そんな場所がいいなと思います。必ずしも芸術家になるということではなくて、受け入れる社会があることが非常に良いことだと思います。都会から人が移住してくるにはそういったリベラルなまち、色々な可能性が楽しめるまちというのが非常に大きいと思います。

高齢者の話が出ましたが、びっくりした話があって70歳以上の高齢者の70%が後悔していることがあるという報道があります。その後悔はチャレンジしなかったことに対してであって、年配の方もこのまちに来れば色々なチャンスがあるとか、リベラルでいられるとか、精神的に自由な場所が10年後にはアートセンターを中心にできればと思っています。

会長 野心を持った老人がウロウロとしているようなイメージを総合計画、基本構想に盛り込めるキーワードを提案していただければと思います。

(委員) 多文化共生という視点で話をさせていただきます。今私たちは日本語教室を毎日開催しているんですけども、一週間で15クラスくらい開催しています。朝昼晩の時間帯で学習される方の希望に合わせていろんなレベルでいろんな時間帯に開催しているんですが、教えている人はみんなボランティアです。3年前に立ち上げたときは、50名ほどの方が来られていましたが、平成27年度は104名の方が来られています。その中には短期の方も来られています。また、国籍は20カ国くらいあります。3年間で50名が104名になったと考えると10年後には、倍の倍で400名くらいになるのかなと思ったりもしています。実は、豊岡に在住の外国の方は大体530人くらいなんですけれども、なかには中国とか韓国の方で長い期間住んでいる帰国者の方とか、在日の方とかがいらっしゃるの、ニューカマーといって新しく来てそこで生活している人が半分以下200人くらいという状況です。私たちのところには久美浜からも来ていただいている方もおられますので、豊岡市内の数ではありませんが、200人近くは把握しています。皆さんもここ3年くらいで外国の方が増えたとは実感されていなくて、一番分かるのは城崎などの観光地に行くと外国の方が増えたということが分かると思います。実は、買い物に行くと中国語の貼り紙が出ていて、爆買いの波がこんなところまで来ていると感じました。生活者としても外国の方が増えているのですが、なぜ気づきにくいかというとアジア圏の方が多からだと思います。特に、女性の方が結婚して豊岡に住んでいる方が増えてきています。国籍でいうと中国やフィリピンの方は昔から多いですが、最近はベトナムの方もおられます。外見は日本人と変わらないので分からないと思います。なかには家にこもりがちの人もいて、外の社会と関わりにくいこともあって、外国人の方に気づきにくいと思います。ただ、今私が感じているのは、家庭を築いているので、お子さんが大きくなり就学年齢になると、保護者が表に出てくるようになるので、ようやく外国の方とわかるようになります。それでも名前が日本人になってい

る方もあるので気付かないと思います。

私の家族構成ですが、主人と義父と娘と息子がいます。その息子が卒園した子ども園でも外国の方が入ってこられて、先生から言葉に困っているという相談を受けたりしています。そうした子どもが増えているということが気になっていて、豊岡に来て間もない頃に村岡で教室を開いたことがあり、そこにベトナムの方が7人来られていました。そこの成人式の写真を見せていただくと1クラス分くらいの数でした。私は元々、姫路市出身なので小学校は6、7クラスあり、人数が全然違うなと感じていましたが、更に地方に行くと少ないと感じました。それを見たときに将来20人、30人の中に20年後はこの半数が外国にルーツを持つ子どもになっているのではないかと思います。例えば、来ていた7人の奥さんが1人ずつ子どもを産むと7人は増えますので、外国の子どもさん、日本の子どもも含めての教育というのは、子どもの将来にとってすごく大切だと思います。そういう子どものお父さんは日本人なので、生まれた環境の中で育つので日本語に不自由なことはないのですが、子どもはお母さんの言葉で覚えるんですけれども、お母さんの日本語が上手ではなかったり、お母さんの語いが少なかったりすると、子どもの日本語のベース部分が育っていないことが考えられます。お母さんが欧米圏の方だと英語で育てられる方もありますが、アジア圏だと日本語で育てられることが多く、すごく苦勞されています。学校に入っても宿題も見れないし、進学のことも全く分からず、困っておられます。子どもが将来、夢を持って進学できる支援が必要だと思います。

もう一点は、来ていただいているお母さんは若い方が多く、20代から40代の生産年齢に絞るともっと外国の方の割合は増えると思います。言語の壁がここにもあって、仕事をしようと思ってもなかなか思った仕事に就けなくて、工場で働いたりとか、家にもこもっていることがあるので、この人たちの力を活かして観光ではガイドや通訳がありますし、観光以外にもマッサージとか、自分の店を持ちたい人もあると思います。先ほど、日本人は起業しないと言われていましたが、韓国や中国の学生に将来何をしたいかと聞くと、みんな「社長になりたい」といいます。でも日本人は社長になりたいという人は少ない気がします。現に外国から来て小さいお店をやっておられる方もありますし、今後来られる方が仕事を作り、人を雇っていくとまちの活性化にもなると思います。先ほどの防災の話でも、防災のことを何も知らなければ地震の被災者になったときに、日本語を少しでも話すことができれば、逆に助ける方に回ることができると思います。地域の消防団にも入っていただくことも考えられます。外国の方は地域の住民として全てのところに関わってきていますので、地域の住民として入りやすい道筋を立てていただければ、豊岡の将来が良い方向に行くのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。阪神淡路大震災が起きた21年前に多文化共生センターが大活躍しました。当時、一緒に仕事していた方が復興庁の幹部になっています。豊岡でもこれから多文化が良い意味で混在していくというか、積極的なまちになってほしいですね。観光がまず多文化の引き金を引いていると思いますけれども、こ

れからどんどんいろんな形で入ってくると思いますので、ご活躍を期待し、ぜひともこの会議でもその辺のご提案いただければと思います。

(委員) 商工会議所という立場でお話をさせていただきますが、商工会議所は商業と工業があって、商業の方はシャッター通り商店街ということで 10 年後はますますひどくなるだろうと思います。人口が減りますし、高齢化が進むだろうと思います。そういう中で私が思いますのは、観光と靴の資源をいかに商業に結び付けるかが重要だだと思います。もともとここにいる人たちが減るわけですから、外から観光として入ってくる人たちにいかに商店街などを利用してもらえる魅力がある商店街にしようと思えないかなと思っています。靴のほうもカバンストリートということで、もっと賑やかになるのでしょうけれども、いっそのこともっと範囲を広げて有名ブランドのショップも誘致して靴のテーマパークのようなことを考え、観光客が城崎に来たら必ず、人が寄るような仕組みにしていかないと厳しいと思います。

それから工業の方ですけれども、これから 10 年先は厳しいでしょう。工業は難しいのは、製造業ではどんどん物が無くなっているというか、例えば、私の会社の例ですと昭和 30 年代に会社を作ってカメラをやっていて、昭和 40 年代はカメラ向けの部品が 90%を占めていました。カメラが 35 ミリフィルムから APS フィルムにかわり、すぐにデジタルカメラに変わり、今はデジカメが使われずに携帯電話やスマートフォンへと変わっていっています。元々、一眼レフカメラ 1 個に 60 個くらいのバネを使っていましたが、今のカメラは数個しかないという状況です。ものすごい科学技術の進歩によって製造業が変わってきていて、その流れがどんどん今も続いているわけですが、今の豊岡市の製造業者はこれから 10 年先、新しい時代の波、技術の波に乗って発展される場所もあるでしょうし、廃業される場所も出て、二極化されると思います。

あとは人口減少となるので、労働者の確保がますます厳しくなると思います。今でもなかなか豊岡の総合高校を卒業した機械系の生徒でも地元に残る人が非常に少ないです。求人が京阪神、東京の大手がどんどん来ますので、最初はそちらに行きたいだろうと思います。ですから若い労働者の確保が厳しくなるだろうと思います。そういった意味では、大学の設置が必要です。但馬技術大学があるわけですが、職業訓練校としての位置づけで、大学を卒業した時の学士号というものはありませんので、短大でもよいので大学という位置付けのものを作る、せっかく県立大学大学院があるわけですから、県立大学のいち学部でもよいですから、これを利用しない手はないと思います。そうすることによって若い人が学びに来ますし、もっと特徴あるものにすれば、日本全国から豊岡で学びたいという人があれば、豊岡で働くことにつながっていくと思います。

それと、労働者の不足に対しては、高齢者と女性の活用をいかにするかということですが、どうしても重たいもの、細かいものに対しては難しいものがあります。ここを補うためには自動化や機械化とかを積極的にしていくことが必要で

政がサポートをしていくべきだと思います。地方創生では、観光と地場産業である靴に集中してやっていくという方針なので、それはそれでいいんですが、その他の製造業や工業にもう少し交流をもって割合をもって全体として発展していく道はないのかなと思います。どうしてもその他工業というのは置いていかれるような感があり、その交流がもっと必要に思います。

行政サービスの地域間格差を感じていて、せっかく但馬県民局があるわけですから、なぜここでできないのかと思います。この間も計画の申請に 30 分間のヒアリングのために神戸まで行かなければならないことがありました。但馬で行政サービスが受けられることも大切ではないかと思います。

会長 商工会議所として 10 年、15 年後の但馬の産業とか経済について議論される場はあるのですか。

(委員) あまりないですよ。それも問題なんですけれどね。商工会議所というのは旧豊岡市だけです。商工会というのが旧豊岡市を除いた 5 地域の商工会が一緒になって豊岡市商工会をやっている訳ですが、ここが別々の動きをしているわけですから、なかなか豊岡市全体で商工業をどうしていくかという場がないのが実態です。

会長 いろいろおっしゃったのですが、我々が外から見ても軸になる産業というのは、靴と観光だというのが分かるんですけど、その他の領域の産業だとかビジネスがどのように連動、連携ができるのか気になります。色々なものが結びついていくというイメージはあるんですけども、それが戦略的に都市としてある一つの方向に向かって結びつきを持つことになるというのが、多分、行政のマネジメントと経済界の連携の接点だとそういうことが可能だと思います。そういう点では商工会議所への期待が経済学者として非常に大きいんですけど、ぜひとも総合計画の議論の中でご提案いただくと良いのではないかと思います。

我々の領域でも地域の経済の発展法則では、英語でリレイティッドバラエティ、関連する多様性という言葉を使うわけですけども、地域の経済が関係性を持つためには、従来の企業城下町のような巨大企業がどんどん来るとか、ある特定の産業がグンと伸びるということではなくて、それが何らかの形で関連づけられた形で全体が動いている構図をいかにうまく作り上げることができるかが都市政策の一番重要なポイントになっています。競争が世界中で起きていると我々は認識していますが、豊岡が重要な柱をもっているのは他の市から見るとうらやましいことです。どのようにリレイティッドバラエティを編成できるのかが経済界、行政のこれからの地域へのマネジメント次第だと思っています。色々ご提案をいただけたらと思います。

(委員) 夫婦でジオカヌーをやらせてもらっていて、順調に伸びています。来週に旅館をオープンすることになりました。起業するにあたって、竹野の観光協会から電話があって足並みをそろえるように言われました。観光協会は大分弱体化してきて、約 70 の旅館が会員ですが、そのうち 40 以上が 70 歳以上のおばあちゃんが経営されている民宿です。そこと足並みをそろえているわけにはいかないんです。10 年後と

いうと観光協会の会員も半数以下となると思うので、維持できないので仕組みを変えていかないといけないと思います。ピンチをチャンスにではないけど、縮小したなりの仕組みを考えていかないといけないと思っています。竹野だけでは観光が成り立たなくて、城崎におんぶにだっこではないですけど、城崎に多くの人があるので、あとひと駅足を延ばしていただいて、城崎がターゲットにしている層に城崎では満足できないアクティビティや海、山の景色といった竹野の特色を出していきたいと思っています。

会長 話の途中ですが、そういうことって、(委員)のところとは話をされているんですか。

(委員) 夏のDMを作っていて、そのことをフロントに聞いても知りません。確か、7社13コースくらい実施されているけど、ホームページをあまり見てもよく分かりません。

(委員) 5,500成績が上がっているうち、3,500はうちが上げています。

(委員) 今日、伺いたかったのはすでにいっぱいなのか、空いているのかということですが。

(委員) 3,500受け入れて今年の目標は4,100に設定しています。いっぱいなのは8月のお盆だけです。4月から10月までやっていて、まだまだ空きがあります。

(委員) 外国人は海が好きなので、外国人狙いでやろうということになっていて、ぜひ、お願いできればと思っています。自分がやったことがないのが問題なんです。

(委員) 城崎の観光協会とは連携しないんですか。

(委員) 個別でさせていただいているところもありますので将来的にはと考えています。

(委員) 5社か7社かあってみんながバラバラで予約が必要で1個1個見ながらしないといけないんです。

(委員) 結構、温度差があって、全国規模にするところや教育系のプログラムにしないといけないところがあって足並みがそろっていないのが現状です。

(委員) 以前の仕事がおせっかいということで観光のPRの手伝いをしていたんで、1市5町が合併したんですけど、やっぱりそれぞれがそれぞれのことをしていて横の連携がないなと思いました。豊岡市の良いところを書き出しましょうということで、各旧市町で年間カレンダーにしてデータベースにしたことがあります。城崎に行ってもなかなかそういうふうなものを持っていないので、アートセンターは年間のスケジュールが決まっていますので、そのアーティストが最後の週末に何らかの形で地域還元プログラムというのをします。観光協会と旅館組合に声掛けして城崎の年間の行事をみんなでカレンダーを作って書き出しました。市の大交流課に入ってもらって、城崎だけでなく豊岡市全域で進めていきたいようなことになっています。今の話でも海開きといえれば7月からしかジオカヌーをしていないと思っています、実は5月からやっているとか、そういった情報を共有する場がないんで、多分、行政しかできないことなんだろうなと思います。民間の人をどうつなぐかというのが行政の仕事になるんだと思います。

会長 行政が実際に手をつっこんですることはできないので、どう良い器を作るかということが大切だと思います。

(委員) 予約の電話をいただいた時にジオカヌーの予約ができればいいんですけど、いちいちホームページを紹介して自分たちで予約をしてもらわないといけないんです。

(委員) オプショナルツアーみたいなものでできればと思います。

(委員) 旬という言葉があって、2週間程度だと思うんですけど、いっぱい旬というのがあって、観光の話ではその2週間しか見れない夕焼けやその2週間しか見れない夜光虫、夜光虫が見れなくても山に行けば見れるものを作っていければいいかなと思っています。見れなかったけど別のものが見れてよかったですねといったことを観光プログラムとして考えています。私は起業してすごく良かったと思いますので、どんどん起業してもらいたいと思います。ただ、カヌーだけでは成り立たないので旅館を始めました。冬の間はスタッフを雪山に行かせています。最初から組み合わせを作って提示してあげることでもっとみんな飛び込んできやすいと思いますし、とんがったキャッチコピーを作っていく必要があると思います。高校を出て外に出られて戻ってこないのは仕事がないという声がありますが、ネクタイを締める仕事がないだけで城崎も人手不足であり、もっと親御さんに浸透させていく必要があると思います。幸せの価値観ということがあったんですが、朝起きて海を見るだけですごく幸せな気持ちになれます。定住していただくだけでなく、4月、5月だけ空き家を別荘感覚で使っていたり、そういったシステム作りが大切であり、あと空き店舗があるのなら改造して週2日程度開業して土日は旅館をするといったこともできると思います。旅館の最終目標は来て泊まってもらって移住の候補の一つになれば良いと思っています。

会長 東京にいる人たちにアンケートしたら6割、7割が地元に戻りたいと思っているということらしいです。条件がそろえばたくさんの方が帰ってくると思います。島根県の海士町も「ないものはない」というキャッチコピーでやっています。そこはたくさん人が移住してきていて、全然、縁のなかった人たちもやってきています。工場ができてそこにたくさん人がやってくるというようなものではなく、資源をうまく市場にのせる工夫ができれば、豊岡とは関係ない人がやってくるような気がします。

(委員) 一番の根幹は人口減少だと思います。寺坂小学校は7人の新入生があって、とても喜ばしいことでした。豊岡市として出て行った若い人たちがUターンで戻ってきて、ずっと住みやすいまちづくりをしていくことが大切だと思います。どうしたら住んでいただけるかと考えた時に、例えば、医療費の無料化や教育の無料化、若い人が一生懸命働いて給料をきちんともらえることが大切だと思います。そういう10年後となったほうがいいなと思います。豊岡に住んでみたいという特徴を全国にアピールしてもらいたいです。

あと、ボランティアで文化協会の運営をしたり、出石の民族無形文化財の槍振り、伝統文化の伝承、国際交流協会の運営など私たちがやっているんですけど、10年後

も若い人が文化に触れたり、文化関係の組織が維持されて組織が潰れずに楽しんで活動してほしいと思います。女性が活躍しやすい社会が大切だと思います。ロボットのお掃除など人はいないけど機械化された農業で成り立っていたり、ロボットが助けてくれる社会になっていると思います。

会長 (委員) みたいに市外から来て、住もうと思った最大の要因というのは何ですか。

(委員) 離婚しても城崎に住んでいようと思います。ただ、医療費がこんなに違うのかというのが正直な感想です。限度額 800 円で薬も 800 円かかるので 1,600 円かかる。子どもが 3 人いたら 4,800 円になるので正直、厳しいです。市長にお話ししたこともあります。無料化すると非常にかさむので他がしんどくなってしまい難しいと聞いています。

(委員) 日高で去年の 8 月から訪問看護ステーションを開始しています。8 名で事業所をしています。色々ご縁があり、在宅医療で起業しましたが、問題が多い分野です。医療の分野も 2025 年問題があって後期高齢者の数が倍になる、団塊世代の人がすべて 75 歳以上となり若者が減る、子どもが減るといったことで、国はお金がなくなることになります。健康な高齢者も多くグランドゴルフをされている方もあるという光の部分もありますが、影の部分もたくさんあります。日高町だけでも独居の世帯が 840 世帯あって、豊岡市でも約 2,000 世帯以上の世帯が 65 歳以上の独居であり、2025 年になれば 5 人に 1 人の方が認知症になると言われています。なかでも老々世帯で 2 人とも認知症の方でお昼食べたものや食べたことも忘れていたり、座薬を薬と思って飲んだりしています。かなり厳しい現状です。昨日の夕方にケアマネジャーから 50 代のがん末期の方で余命 3 か月の方の対応連絡がありました。病院はどんどんと退院させていきます。救急医療のほうが点数が高く、入院させておいて慢性医療では点数がないのでどんどんと退院させていきます。そうしないと国からも加算をもらえません。とにかく出すということに徹していて、先ほどのがんの方は退院しても独居なので見てくれる人がいません。誰がその人を看取するのかという問題があります。訪問看護は訪問介護よりも点数が高いです。介護 3 は訪問介護の点数の半分で利用できます。しかし、ヘルパーはがんの末期であっても麻薬のコントロールや医療処置が全くできません。医療依存が高い方が退院して家に帰ったときに在宅で医療が必要なので、訪問看護が利用できなくなれば一人で死んでいくことになってしまいます。2025 年、2035 年にどういった状況になるかという高齢者が倍以上になって若者が減る、子どもが減る、介護度が 5 であれ、寝たきりであれ、一人で最後を迎えないといけません。がんの末期であってもどうやって最後を迎えるかが問題です。この場で意見を言えるのはとてもありがたいです。医療では 3 次救急でドクターヘリを力を入れておられますが、それも確かに大事ですが。しかし、例えば、90 歳のおじいちゃんが倒れてドクターヘリで運ばれて 1 か月間病院で療養治療をされて、管をたくさんつけて亡くなられたとすると、病院で亡くなられた人がひと月で使う費用は 300 万円ぐらいと言われています。ドクターヘリにも費用がかかります。例えば、そのおじいちゃんが何が何でも生きたか

ったか、どれだけ管をつけても生きてかったというのであればそれなりに対応ができますが、その時に使った市からのお金、税金 300 万円が本当に意味があるものなのかという疑問があります。国全体で若者が抱えている借金はおよそ 300 万円と言われていて、年間の飲んでいない残薬の額が 500～800 億とも言われています。訪問看護に入ってみると、薬がいっぱい袋に入って出てきます。そんなところのお金が良い方向に流れにならないかなと思います。幸せの価値観と関連して死生観が大事だと思います。日本人は死を忌み嫌いますが、どういう死を望むかということになります。90 歳のおじいちゃんが倒れた時にドクターヘリを読んで、管だらけになって亡くなることを望んでいなかったかもしれないので、事前にどういう最後を迎えたいか、どう生きたいかを話しておくことが必要だと思います。治療よりもケアにシフトしてきています。

精神科の患者は 320 万人いるそうで、若い方で自閉症の方や心の病気で引きこもっている方がいて、日本でも 20 人に 1 人の若者が働いていません。マンパワーの面でも精神障害の人は必要であって、ある一つの能力にたけていて芸術の面でも特にすぐれていたりします。そういった能力を障害者という区分で線引きをしてしまったことに誤りがあります。本当はすごく能力にたけていて、一つのことがすごくできて、そこを認められたら障害者が障害者でなくなってくると思います。メガネがそうであって、視力の悪い方がかければ見えるものが出てきます。昔であれば、目が悪ければ障害でしたが、それが障害でなくなって、マンパワーとなるものもあります。ぜひとも、力になればと思っています。

副会長

10 年後、自分が元気だろうかと思っています。10 年経つと日本の技術力が大変向上していると思います。自動的に走る車ができていて、運転の指示をするのもコンピュータがするようになって、へき地の交通を担うようになるのではないかと思います。今は実験段階ですが、ドローンによって買い物が不自由なへき地の方への対策ができています。2025 年は団塊の世代がどっと高齢者となって増えるので高齢者対策も大変だと思います。福祉の主流は施設介護よりも目指すのは在宅介護であり、ヘルパーも買い物もしてあげていますが、そういったこともドローンで解決できるのではないかと思います。若者が残る社会というので昨日テレビを見ていたら益子焼の話題でオーストラリアの人がやっていて、大量生産をしているそうです。豊岡も出石焼があるんですけど高貴過ぎて高価であるので、一般に使うようなものにするのも大切だと思います。そんな技術を使って、安い瀬戸物を作るようなことをしてくることが大切だと思います。

やはり、仕事が大切だと思います。大学を卒業しても、戻れる場所がないことが問題だと思います。以前、福知山に行った時に長田野団地があるんですが、高卒程度の若者は雇ってもらえますが、大卒のホワイトカラーは本社勤務になってしまっています。これからバリバリやってくれるような若者に戻ってきてもらわないと困るということでした。帰りたいたと思っているけど 30 歳を超えているとなかなか戻ってこれなません。弘道小学校ではふるさと出石を知る授業ということで、校外に

出て勉強する授業をしています。やがて、この子たちが出石を担ってくれることになるので、そういった気持ちで教育をしていかないといけないと思います。そうすれば、ふるさとを愛する教育によって若者が帰ってくることに繋がると思います。

市長が仰るには英語教育は来年から幼稚園も含めて実施するそうです。城崎には外国人がたくさん来ているので、それに対応できるようにしたいということですが、その通りだと思います。自分が言いたいことが言えないといけませんし、そのようなことができるように大きくなってもらいたいです。

会長 共有ということではないですけど、皆さんの問題意識というかスタートの時点での考えを伺えたのではないかと思います。第3回目はこういった議論をベースにして事務局で整理してもらって軸になる、これから議論すべきキーワードで議論できればと思います。

4. その他

事務局 今後、まちの機動力となる高校生の意見も参考にならないかと思っています。どのように意見を聞いていけばよろしいでしょうか。

会長 高校生ワークショップですが、この場に来てもらうことよりも我々から学校へ出かけていくほうが良いと思います。

計画を作ったら、それに向かってまっしぐらに進むことになりますが、今は作って半年したら事態が全く変わっているようなこともあり得ますので、変化に耐えられる機動的な仕組みで計画が動いていけるように議論していけたらと思います。

事務局 では、学校側と相談して実施方法については検討していきたいと思います。

5. 閉会